

# 代主

古名

葛城鴨

世阿弥作

前

ワキ 賀茂の神職

シテ 宮人

ツレ 同

後

ワキ 前に同じ

シテ 事代主の神

地は 大和

季は 四月

「関の戸さゝで秋津洲や。く。道ある御代ぞめでたき。」

詞

「そもく是は都賀茂の明神に仕へ申す神職の者なり。又和州葛城の明神は。当社御一体の御事なれども。いまだ参詣申さず候ふ程に。唯今和州葛城の明神に参詣仕り候。」

道行

「四方の国。治まる雲の果までも。く。君の御影は明らけき。天つ日影の山の端に。斯かる時代は

曇りなき。峰も其方か葛城の。賀茂の宮居に着きにけり。く。

シテ、ツレ一声

「葛城の。賀茂の神垣時を得て。咲く卯の花の白和幣。」

ツレ

「鳴らさぬ枝も夏木立。」

二人

「茂りをさめて風もなし。」

シテサシ

「是は当国葛城や。賀茂の社中を清め申す者なり。」

二人

「有難や頃は卯月の始めとて。賀茂のみあれの時既

に。夏も来にけり小忌衣の。袖白妙の木綿畳。幣  
とりぐの神祭り。御代を守りの道すぐ。に。万歳  
の末を祈るなり。

下歌

「いざく庭を清めん。く。

上歌

「もとよりも。塵に交はる神心。く。和光の影は  
いやましに。栄え行くなり国々も。豊かに照らす  
日の本や。千里万里も治まれる。誓ひの海は有難  
や。く。

ワキ詞

「如何に是なる老人。是は当社始めて参詣の者なり。  
此あたりは皆故有る名所なるべし。詠めの名所を  
教へ候へ。

シテ詞

「さん候此葛城の賀茂の宮居。都の賀茂と御一体の  
御事なれば。都の人こそ知ろし召さるべけれ。其  
上龍田初瀬の紅葉をば。見ねども歌人の知し召す  
なれば。我等が申すに及ばず。唯君万歳の御守り  
と。当社に祈り申すならでは。又他事も候はず。

あらめでたの御神拝やな。

ワキ詞  
「実にく翁の申す如く。我等本社賀茂の社頭にありながら。当社の事を尋ぬるは。今更なるべき事ならずや。」

シテ  
「恐れながら此御尋ねこそ。少し不審に候へとよ。賀茂の本社と申さん事。忝くも開闢以来の影向の始め。まづ葛城の賀茂なれば。此宮居こそ取り分きて。賀茂の本社と申すべけれ。」

ワキ  
「実にく是は理なり。まづく最初の影向は。此葛城の賀茂の神。」

シテ  
「其後天下平安城に。顕はれ給ふ賀茂の神山。」

ワキ  
「其神の名を糺の竹の。」

シテ  
「御代も治まり七つの道も。」

ワキ  
「猶末すぐに。」

シテ  
「曇りなき。」

地  
「よそまでも。名は葛城の賀茂の神。く。御代

を守りの御威光。普ねしやく。四海の波も治まりて。国富み民も豊かなる。御影ぞ貴かりける。く。

地クリ「それ君は舟臣は水。水よく船を浮べつゝ。臣よく君を仰ぐとかや。

シテサシ「然れば王城の鎮守として。誠に以て御名高き。

地「其水上は山陰の。賀茂の御手洗潔き。流れの末は久方の。雨つちくれを動かさず。安く楽しむ時と

かや。

シテ「有難しとも中々に。

地「言葉を以ても述べ難し。

クセ「然るに葛城や。高間の山と申すは。金剛の峰として。胎金両部の。其一法を顕はし。神も影向なるとかや。西天仏在世よりは。東北の霊峰。是れ大和の金剛山。三国不二の峰として。御代の宝の。山とも是を名づけたり。そもく葛城の。賀茂の

神垣隔てなく。王城の鎮守と顕はれ。百王守護の  
神山や。賀茂の祭とて。忝くも大君の。清涼殿や  
長階の。出御も絶えぬ年々に。卯月の其日の。と  
りどりの御遊なるとかや。

シテ「千早振る。賀茂のみあれや夏引の。

地「糸毛の花車めぐる日の。今日に葵の二葉より。我  
しめゆひし姫小松の。千代をかけて水鳥の。鴨の  
羽色やしもと結ふ。葛城も同じ神山の。一体分身

の。御代を守り給ふなり。此御代を守り給ふなり。

ロンギ地

「実に葛城の神の代の。く。其道すぐに夕霜の。  
翁はさても誰やらん。

シテ「誰ともいはん翁さび。人などがめそ我こそは。事

代主の翁とて。御代を守り申すなり。

地「そもや事代主と聞く。其名は如何に。

シテ「音高し。

地「事代主と申すこそ。葛城の神の名なれ。いざや神

体を顕はし。旅宿をあがめ申さんとて。葛城や高  
間山の。嶺の雲に翔りて。天の戸に入らせ給ひけ  
り。く。(中人)

ワキ歌 「心も共に澄む月の。く。光さやけき夜神楽の。  
御声も同じ松の風。更け行く空ぞ静かなる。く。

後ジテ 「あら有難の折からやな。我劫初より此山に住んで。  
王城を守り御代をあがめ。天下泰平の宝の山。葛  
城の神と顕はれて。唯今こゝに來りたり。あら面

白の夜遊やな。

地 「標結ふ。葛城山に降る雪は。

シテ 「間なく時なく思ほゆるかな。

地 「それは三冬の深雪の空。

シテ 「是は卯月卯の花の。

地 「雪をめぐらす舞の袖。古き大和舞。拍子を揃へて  
面白や。

ロンギ地 「あら有難や有難や。天下泰平樂とは。如何なる舞

の事やらん。

シテ「怨敵の難をのがれて。上下万民舞ひ遊ぶ。

地「さて万秋楽と申すは。

シテ「都卒天の楽にて。見仏菩薩舞ひ給ふ。

地「春立つ空の舞には。

シテ「春鶯囀を舞ふべし。

地「秋来る空の舞には。

シテ「秋風楽を舞ふとかや。

地「舞に颯々といふ声は。楽々と響くなり。いつも其

声尽させぬは。此砌なるべしやな。万歳の四方の

国。道ある御代ぞめでたき。く。